

NO! MORE! 尼崎事故

NRU 国労せんだい

N0 . 2464
2006年5月10日
発行責任者 太田博二
編集責任者 武田昌仙

安全問題を検証する集会を開催

昨年の四月二十五日、JR西日本会社の福知山線で発生した電車の脱線・転覆故から早一年が経過した。地方本部では四月二十五日を「安全問題を検証する日」と制定し、宮城・福島の各県で集会を開催した。

宮城県集会では

◆全国各地で集会◆

主催者を代表して冒頭挨拶に立った橋本地本副執行委員長は「一年前の尼崎事故を教訓化して風化させない事が大切であり、そのため地本としても議論して今日の集会を開催した」と集会開催の趣旨を説明すると共に全国各地で同様の集会が取り組まれていることを報告した。また「事故は西日本だけでなく東日本会社、仙台支社（山形車両センター）でのP社下請労働者の感電死傷、奥羽本線赤岩・板谷



での同じくP社下請労働者の感電死亡、羽越線での特急列車脱線転覆による乗客乗員の死傷事故）でも引き起こされている」として、決して他会社・他人事ではないことを強調し、組織として安全問題に対してより一層の取り組みの強化をしていかなければならないことを強調した。

◆分割民営化の歪

また地方本部の問題提起に立った佐藤執行委員は

「十九前の分割・民営化反対闘争当時、我々は民営化＝儲け優先となり安全が損なわれると主張してきたが、正に現状はその通りとなっており至極残念である」と述べ、行き

◆立山氏報告

議論かみ合わずも 協議の場を約束

去る四月十九日に奥羽本線赤岩・板谷駅間での感電死亡事故について（昨年十二月八日に発生、被災者は電力のP会社社員32歳）原因究明と再発防止策を求めて団体交渉を開催した。会社は本人（被災者）のルール違反が原因であると断定し請負会社への感電事故防止教育の再徹底で再発防止が可能とし、組合が主張する「新体制の問題点や弊害による構造的な背後要因」を掘り出した主張とは議論が噛み合わなかった。



職場から安全を守る

論が噛み合わなかった。ただ会社側も請負会社の加重労務や工事発注側の工事業務全般の仕組みにも問題点はあると述べた。交渉後、組合側より昨年から連続して発生している重大事故を鑑み、業務全般を見つめ直し二度と悲惨な事故を繰り返さないため、労使間で協議する場を設置するよう要望した。会社側はどういう形になるかはわからないが検討すると答えた。

◆我妻氏報告

金をかけたから要員減では納得出来ない

要因削減を目的のために導入されたパンタすり板自動測定装置だが、カメラ自体も良いものでな



過ぎた効率化・合理化に対して警鐘を鳴らした上で、これまでの重大事故を報告し、原因の究明と課題、そして地方本部の取り組みなどについて報告・提起をした。

く、設置箇所にも不備があり、全車両をカバーできないものになっている。



最近ではパン擦板の段磨耗も増加し、パン本体が破損する重大事故が起きてもおかしくない状態である。数千円も掛けた装置だから、導入した今の所長は撤去しないだろうが、時期が来れば止めざるを得ないだろう。また制輪子が極端に磨耗して仙山線を走り続けた事象も発生している。私たちは乗客の安全を守る立場から、もつとこうした問題を前面に出して訴えて行かなければならない。

地本電気協議会定期委員会を開催

電気労働者の地位向上を

去る四月八日、国労仙台地本電気協議会（地電協）は、国労会館において第〇〇回定期委員会を開催した。冒頭挨拶に立った千葉議長は「メンテナン스合理化以降加速度を増して劣悪になっっている電気職場の労働条件や職場環境に対し、諦めずに粘り強く闘いを組織しよう」と挨拶し、電気労働者の地位向上のため奮闘し合おうと組織への結集を訴えた。

◆安全・安定輸送が困難に！

また来賓として東日本電気協議会の高橋事務長からは◆技術力継承の問題であるが、50歳以上が4割を



挨拶する千葉議長

占める一方で平成採用が非常に多くなっている。事故対応が困難で教育もその場しのぎ。安全・安定輸送の確立が困難になっている

◆和解問題をどう捉えるか。差別感を無くして組織拡大へという取り組みだが、職場では人間関係も含めて戸惑いもある。一番大切なことは仕事を通じて取り組みを強化して行くしかない、などの挨拶を受けた。

質疑では例年通り議長の取り計らいで、全ての職場

去る4月22日標題の会議がこくろう会館で開催された。会議は地方本部のアスベスト対策委員（佐藤勝執行委員長座長）と各支部の対策委員で構成され、今日までの経過を全体で確認し討論をした。

各支部からの報告では◆支部として第2回のアスベスト対策会議を開催してきた◆昨年11月の特殊健康診断（以下特健）の結果が結果報告ということで本人に配布されているが「軽度の異常」という人もいる。本人は心配しており説明すべきである◆再検査の人もおり、不安の無い様説明すべき（以上仙総支部）◆2人が死亡しており遺族が労災申請手続きの最中で

から状況も含めて発言があり、それぞれの職場の近況

を報告し確認することが出来た。

電気協議会新役員

議長	千葉 薫	変電分科長（兼）堀切彰
副議長	堀切 彰	通信分科長 梅宮 繁
事務長	大橋 康	貨物分科長 木元 敏章
在来電力分科長	橋本 幸一	事務分科長 佐々木 茂
幹線電力分科長	立山 昭仁	会計監査 半沢 逸雄
在来信号分科長	小林 康広	会計監査 田中 博
幹線信号分科長	佐々木 照	☆よろしくお願いします

第四回アスベスト対策会議を開催

ある（郡山工場支部）◆1989年当時貨車解体業務に従事した組合員が危険であるとして訴えたこと「処分」として会社

かから出されてる。名譽回復は勿論のこと、実損も回復する手立てを（福島県支部）、など活発な意見報告がなされた。今後の取り組みとして、会社に対しては①再検査の

必要な人数と軽度の異常の人数を明らかにさせると同時に本人に対して十分な説明をさせること②本人が特健を希望した場合は受診させることを求めていく。

組合としては①特健を求める組合員に対しては受診させる②地方本部として「特健結果報告」を管理する。各支部は結果を地本に集約すること等を決定した。また地方本部は組織機関として「社団法人神奈川労災職業病センター」に団体加盟をし、アスベストに関して疑問等があれば仙台地本として相談が出来ることとなった。詳しくは地方本部へ連絡を。今回の会議は6月17日（土）予定。

仲間の異動

地域間異動 異動

- 3月3日付
- ◆箭内 喜八氏
仙台車セ↓渋谷駅
- 4月4日付
- ◆渡邊 斉氏
仙台駅↓東十条駅
- ◆生出 宏彦氏
古川駅↓渋谷駅

地域間異動 復帰

- 4月19日付
- ◆小室 勝則氏
東京駅↓白石蔵王駅
- ◆千葉 祐悦氏
東京駅↓多賀城駅
- ◆白鳥 勝則氏
中野駅↓仙台駅
- ◆山本 善昭氏
渋谷駅↓仙台運輸区

地域間異動者激励会

- 日時 5月27日（土）13時から
- 場所 東京地本会議室
- 会費 千五百円（家族無料）
- その他 5月10日まで出席報告願います
